社会福祉法人ゆうしん　特別養護老人ホームくるま乃

令和４年度　事業計画

１．法人理念	ささえあい、生きていくよろこび ・「地域で生まれ、地域で育ち、地域で過ごす」、この当たり前のことを当たり前に行うお手伝いを私たちはしていきます ・一人ひとりがかけがえのない存在と考え、利用者の気持ちを第一に、温かみのある支援を行います ・地域のつながりを大切にし、地域住民のよろこびが私たちの満足になることを目指します
２．施設運営方針	・ご利用者とご家族の視点に立ったケアを行うことで、信頼関係を築き上げる。 ・施設にとって人材こそが最高の財産である。 その人材を育成することで、利用者サービスの向上を図る。

３．令和４年度基本計画

（1）「自分らしさ」を基本に介護サービスを提供する

ご利用者に対して介護することに懸命になり過ぎると、ときとして「この人はきっとこう思っているはずだ」「介助によって普段の生活はこうあるべきだ」と、ご本人の気持ちは置き去りにされ、介助者も含む周りの人から見たその人に対するイメージが先行し、その人の持つ「自分らしさ」が後回しにされることがあります。

特別養護老人ホーム及び短期入所生活介護においては、ご利用者の皆様の「自分らしさ」を尊重し、過去の生活歴を参考にしつつも今のお気持ちを考え尊重し、自分で言葉にして表現することが難しいご利用者も、本人の出すサインを読み取って、ケアサービスを提供します。

また、特別養護老人ホームにおける看取り介護については、入所時においてもしもの時についての話し合いをご本人、ご家族としっかりと行い、、出来る限り意向に沿った対応が出来るようにサービスを提供していきます。

医療面においては、有田病院と連携を取り、もしも「看取りではなく医療的面において出来る限りのことをしたい」など、途中で最期の過ごし方についてご利用者とご家族の考えが変わったとしても、お気持ちに沿った対応を提供します。

通所介護及び小規模多機能事業所においては、出来るだけ長くくるま乃の介護サービスを使いながら自宅での生活が少しでも長く続けられるように、来所いただいた時の介

護サービスだけでなく、ご家族やご本人からの求めに応じて相談や助言を提供することを心がけます。

（２）各専門職の専門性のレベルアップ

今年度も新型コロナウイルスの影響で集合研修がほとんど無く、インターネットを使ったオンライン研修がほとんどとなっています。

このオンライン研修の利点を活かして、各機関からの情報を収集し、専門的な研修にも積極的に参加出来るように勧めていきます。

また、今年度は外部講師を招いて研修を行った際は、講師の了解を得てスマートフォンで動画を撮影し、ユーチューブに動画をアップすることで研修内容を自分のスマートフォンで自宅でも見れるようにしました。（閲覧期間は限定しています）

出来るだけ多くの職員と知識の共有が出来るように今後も継続していきます。

（３）各種委員会の開催による施設運営強化

施設運営の方針等を決定する「施設運営会議」その他、以下の各委員会を定例的に開催し円滑な施設運営に努めます。

①リスクマネジメント委員会…事故防止の指針に基づき、発生した事故やヒヤリハットを検証しながら事故の再発防止の体制整備と、施設内研修を実施して危険予測の

感度を高めます。

②感染・褥瘡委員会…新型コロナウイルス予防や衛生管理を徹底し、「感染症及び食中毒の予防及びまん延の防止のための指針」に基づき感染症の予防に努め、感染症施設内研修を実施します。

③サービス向上委員会…看取り介護の知識充実や認知症ケアの質向上に向けて、ご利用者の立場に立った考え方を根付かせるために研修会を企画、実施します。。

⑤防災委員会…防災への適切な対応が可能となるように、年２回の防災訓練を実施し、火災通報、初期消火、避難訓練、防災設備の復旧、地震対応等の訓練を重点的に実施します。

備蓄食料品・医薬品等の適切な確保に努めるとともに、これらの定期的点検整備を行い緊急事態に備えます。

また、新発田市より提案のあった「福祉避難所」としての地域協力に積極的に関わり、地域貢献に努めます。

（4）新型コロナウイルス対策について

今年度は通所サービスのご利用者とその介助に関わった職員に陽性反応が出ました。昨今流行しているオミクロン株については、従来言われている予防策だけでは防げないことを痛感しました。国が定める濃厚接触のひとつに「お互いマスクをせずに

1メートル距離で15分以上会話した場合」を感染リスクの高い濃厚接触者として定義していますが、介助で感染した職員はマスクを常にしていたにもかかわらず感染してしまいました。

嘱託医である有田正知理事長とは流行状況を見ながら随時対応してきましたが、今後も柔軟な対応をして「感染しても持ち込まない」とうこととを念頭に置き、各種対応を整備していきます。